

シリーズ第23話

かかりつけ医を 持ちましょう

【かかりつけ医の役割】

- ・風邪や重傷でないケガなどの一般的な病気、慢性的な病気を診察します。
- ・専門治療（市民病院への受診など）の必要性を判断します。
- ・病気の予防や日常の健康管理をします。
- ・健康相談ができます。

【市民病院の役割】

- ・病状が重症化したときに入院治療などを行います。
- ・専門的な検査や手術などの診療を行います。

【主治医がふたりになる安心】

体調に異変が起きたら、まずホームドクターである「かかりつけ医」を受診してください。そこでより詳しい検査や入院などが必要だと判断した場合、市民病院などへ紹介されます。

紹介された患者さんは市民病院で詳しい検査や手術、入院、治療を行います。その後、市民病院での入院や治療が終了すると、再び「かかりつけ医」へ戻ることになります。

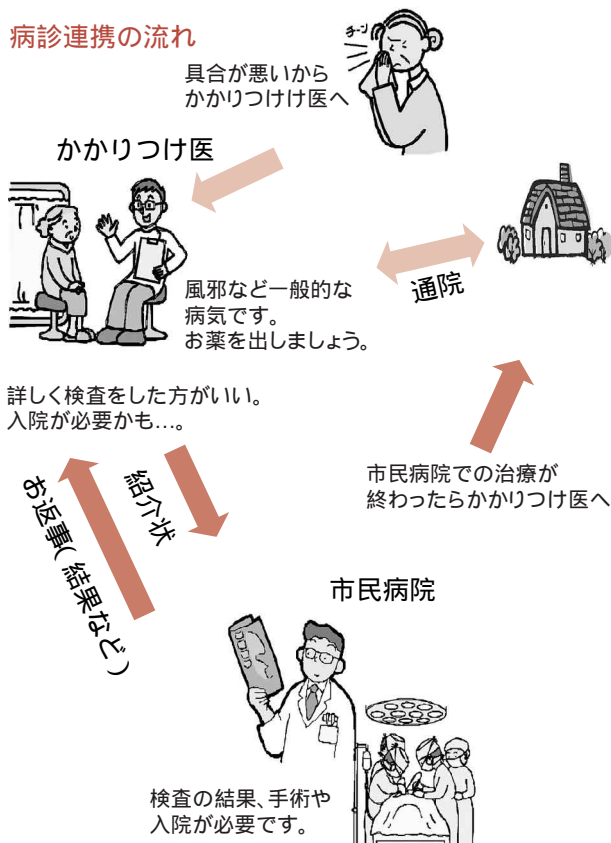
普段はかかりつけ医が主治医となり、必要に応じて市民病院の医師が主治医となります。「紹介状」は、市民病院とかかりつけ医の「ふたりの主治医」が情報交換できるとも大切な診療情報です。もし、紹介状がないと、待ち時間が長くなりスムーズに受診できないばかりでなく、これまでの病歴や経過が分からず、治療や薬が重複してしまい、医療費の高騰や副作用の危険性など、マイナスマネジメントが難しくなってしまいます。市民病院では地域の医療機関と「病診連携」を推進しています。



新城市民病院 地域医療連携室
医療看護相談室
主査 内藤まゆみ
(写真前列中央)

それぞれの医療機関の特色を活かし、より良い地域医療を実現していくために、医療機関の役割を理解していただき、症状に応じた受診行動をお願いいたします。

病診連携の流れ



市民病院とかかりつけ医の役割 ~糖尿病患者さんの場合~

